２０２１年度 青森県サッカーユース審判３級昇級講習会（南部地区）

（一社）青森県サッカー協会審判委員会

１．期日　令和4年1月１５日（土）～1月１６日（日）
２．会場　グリーンドーム南郷
３．参加者

１月１５日

ユース審判員

３級昇級希望者６名
３級更新３名
ＲＡＣ審判員１名

審判インストラクター

◆　種市　穂　（県審判委員会委員長）
◆　見付　和昭（県審判委員会インストラクター部長）
◆　石田　明　（県審判委員会ＲＡＣマスター）
◆　石鉢　学　（県審判委員会強化・指導育成部ユース部長）
◆　袴田　健　（県審判委員会強化・指導育成部ユース副部長）
◆　沢目　秀樹（審判インストラクター）
◆　ＳＩ３新規１名 ＋ ＳＩ３更新３名

１月１６日

ユース審判員

３級昇級希望者６名

審判インストラクター

◆　石鉢　学　（県審判委員会強化・指導育成部ユース部長）
◆　袴田　健　（県審判委員会強化・指導育成部ユース副部長）
◆　沢目　秀樹（審判インストラクター）
◆　ＳＩ３新規１名 ＋ ＳＩ３更新２名

４．タイムスケジュール

時間	１月１５日	１月１６日
８	開講式（割当確認） 【実技】ピッチインスペクション（山崎RAC）	開講式（割当確認） 【実技】ピッチインスペクション（三浦ins）
９	試合観戦 【座学】大会要項の確認（石鉢ins） 競技規則テスト	試合観戦 【座学】大会要項の確認（石鉢ins） 競技規則テスト
10	【実技】大会での審判活動 ● 試合ごとにR,A１,A２を務めた。 ● 試合ごとに反省会を行い、次の割当で改善できているかを図った	【実技】大会での審判活動 ● 試合ごとにR,A１,A２を務めた。 ● 試合ごとに反省会を行い、次の割当で改善できているかを図った
15	実技終了	実技終了
16	【座学】審判員として（山崎RAC） 【座学】サッカー審判員とは（石田ins）	【座学】審判員としての知識（石鉢ins） 【実技】審判団の打ち合わせ（袴田・沢目ins）
17	試合終了 【座学】審判報告書の書き方（石鉢ins）	試合終了 【座学】審判報告書の書き方（石鉢ins）
18	閉講式（今後の動き）	閉講式（今後の動き）

５．講習会の様子

- 第3回八戸市サッカー協会冬季中学生サッカー大会（チャレンジ）にて、８人制３人審判を行った。
- 講習会は１日ごとに宿泊なしで募集をかけ、実施した。
- ＳＩ３新規・更新講習会も同時に開催し、ユース審判員のアセッサーを行う。その評価をＳＩ２が行った。
- 主審や副審の動きを習得するために、前半のみＩＮＳの影として動くシャドウを取り入れた。

- 昨年度この講習会で昇級したユース審判員を更新講習会として招へいし、１年間の経験を通じてどれだけ成長したかを確認するだけでなく、次の課題を発見させる場とした。

６．　参加者レポート

●　袴田　健太郎（中学１年生・男子）

私が今回の３級昇級試験を受けようと思った理由は、いつも試合のときに一緒にフィールドに立っている「審判」という立場に自分もなってみたいと思ったからです。

今回、講習会で実際に審判をやってみて「審判は、試合をもっと楽しくする、なくてはならない存在だ」と改めて感じました。さらに審判活動を通じて、選手や同じ審判員とのコミュニケーションを取り、グラウンド・選手達・審判団などへ「リスペクト」の精神や感謝の気持ちを忘れないなど、様々なことを学びました。

最後に、今回の昇級試験や講習会は、私にとってとてもいい経験になりました。ご指導くださり、本当にありがとうございました。

●　櫻田　奈々（中学２年生・女子）

サッカーというひとつのスポーツの中で、プレーヤーだけでなく審判という立場でも、もっと上の世界観を経験してみたいと思い、３級昇級講習会を受けました。実際に受けてみて、自分が思っている以上に現実は甘くないと感じました。主審も副審もシグナルが難しくて思うようにできませんでしたが、やっていくうちにどんどん上達していくことを感じたので励みにもなったし、とても楽しくやれました。

●　沼辺　喜穂（高校１年生・女子）

私が今回の審判講習会を受けようと考えた理由は２つあります。1 つ目は、サッカーの指導者をしている父が小学生の大会で審判をしているところを見て、かっこいいと思ったからです。２つ目は、私は大会の時に援助をすることが多く、その際に審判を任せられることもよくあります。その時に３級審判の資格が役に立つと思ったからです。

今回の審判講習会を通し、審判はルールを理解しているだけでは務まらないと感じました。実際に審判をしてみると、思っていた以上に判断力が求められる役割で、自分のジャッジが試合の隅々まで影響すると感じ、とても難しかったです。私が印象に残っているのは、審判同士が集まって試合前に行うミーティングの練習をしたことです。主審として自分ができないことをお願いすれば良いだけだとはいえ、色々な場面を想定して話し合いを進めなければなりません。自分達の試合を行うために、こんなにも念入りにミーティングをしてくださっていることに改めて感謝しようと感じました。講習を受けてみて、もっと審判の経験を積むことが必要だと感じました。私はルールブックの読み込みが足りず、このままでは公平なジャッジを行うことが出来ないので、じっくり読み込みたいです。

最後になりますが、今回はお忙しい中、熱心に指導して下さり、また貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。これからもどうぞ宜しくお願い致します。

●　橘　聖蘭（高校１年生・女子）

中学生の頃から本格的に審判をして審判が楽しいと感じ、副審だけでなく主審に挑戦したいと考えていました。前々から３級を取ってみたいと言う気持ちがあり、顧問の先生から後押しもあって、今回の昇級試験を受けさせていただきました。

副審は数をこなしてきていたので大丈夫だろうと過信していた部分がありましたが、実際に受けさせていただいて、今まで知らないでやっていなかった所や間違って所がありました。また、今回の講習で分かった部分や自分がもっと成長しなければいけない所が見つかり、もっと審判の数をこなしていきたいと思いました。

本当に今回は講習を受けさせていただき、ありがとうございました。とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。これからも審判活動を頑張って行きたいです。

● 久保沢　透大（高校３年生・男子）

私は、高校１年生の時にユースＳ３級講習会を受けて３級になりました。それから、自分の技能や知識をつけるために積極的に審判活動をしていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大で思ったように審判活動を出来ないことが多々ありました。そんな中、３級でも講習会を受講できることを知り、是非とも審判を実際にやってインストラクターの方々からご指導をして頂きたいと思い受講しました。

実際に受けてみて、やはり審判は面白いと思いました。講習会の中で見た場面やシーンがそのまま実際の試合に現れたりして、実際に主審をする楽しさを改めて感じることができました。いつもの１１人制サッカーより狭いピッチで動きが違うところもありましたが、その中で一番適切な角度や視野を確保して臨機応変に対応するとてもよいトレーニングになりました。来年からは２級昇級に向けて経験を積んでいきたいので、これからも宜しくお願いします。

● 山崎　匠悟（高校３年生・男子）

今回は同年代の皆さんと一緒に講習会に参加でき、有意義な時間を過ごせたことをうれしく思います。ありがとうございました。

講習会では「審判員として」というテーマで、審判活動の楽しさや活動の際に大切にしていることをお話ししました。活動を通して多くの仲間ができますし、「次に会うときには成長した姿を見せたい！」という気持ちが、日々のモチベーションにもつながります。大切な仲間に対して、「リスペクト」の気持ちは忘れてはいけないものです。

今回参加された皆さんは審判活動に対して前向きに取り組もうとする姿勢が印象的で、こちらからも真剣に思いを伝えることができました。将来、受講された皆さんと一緒に活動することを楽しみにしています。ありがとうございました。

◆ 種市　穂（審判インストラクター）

今回ユース審判員の研修会に参加し、有意義な時間を過ごすことができました。ユース審判員の皆さんは昇級審査ということもあって真摯な姿勢で取り組んでおり、審判指導者として、大人の審判員を指導する時と異なった緊張感を持って対応することとなりました。

例えば、試合後の振り返りで、ユース審判員の皆さんは少しでも上達しようと、意欲をもって臨んでいると十分に伝わってきました。しかし、自分の考えをうまく表現できない所があり、審判指導者として、その辺りを考慮して審判員から考えを引き出す作業が必要でした。ユース審判員を指導する際の難しさを実感させていただきました。一方で、ユース審判員の吸収力に感心させられました。指導された改善点を次の試合でチャレンジして自分のものにしようとする姿勢は、大人の審判員に見られない積極性と柔軟性を感じました。

この度の研修会を通じて、ユース審判員の皆さんは審判員の難しさとともに、やりがいや楽しさを感じてもらえたのではないでしょうか。今後は選手だけでなく、審判員としてもサッカーというスポーツを楽しんでいただきたいです。

◆ 石田　明（審判インストラクター）

ユース審判員昇級講習会に参加させていただきました。２年ぶりに実技を伴った講習会を開催できたことは非常に喜ばしい限りであります。

さて、今回参加した審判員は、若くこれからの青森県の未来を担う人材であると考えます。個々の経験は少ない中でのスタートでしたが、非常に吸収が早く、アドバイスを受けたことを実践しようと努力する行動を見ていると、理解力の早さと行動力の高さをうかがい知ることが出来ました。また、同年代の審判員とインストラクターからの講義を受講し、審判員の世界の深さと難しさを知ることができたようでした。

最後に、昨今のコロナウイルス蔓延によりサッカーをすることの難しさを感じております。ユース審判

員の参加について快くご理解いただいたことと、本大会の実施に尽力いただきました関係者各位に改めて感謝するとともに、厚く御礼申し上げます。

◆　蛯名　一樹（審判インストラクター）

ユース審判員のみの３級昇級講習会がインストラクター更新講習会も兼ねて行われました。普通のインストラクター更新と大きく違い、実践的にできたことや特に年齢の近い若手審判員に指導できたことは、私のキャリアにとっても大きいものでした。

講習会では審判員のシャドウを初めて行い、自分が実際に動くポジショニングを確認しながら声を出し、伝えれること意識して行いました。その後の反省会で審判員から「不安でしたが、ポジショニングとか教えてもらってよかった」と言われました。こう言った生の声を聞いて、とても良い経験になりました。また、今後の審判活動にも活かしていきたいです。

◆　三浦　恭祐（審判インストラクター）

この度、ユース審判員の指導を務めさせていただき、ユース審判員とともに試合の進め方に関して何が最適であるかを考える時間をとることによって、自分のレフェリングにもつながる気づきがあったので感謝しています。このような機会になるべく多く参加し、青森県のレフェリーのレベルが少しでも上がることを期待します。

７．　謝辞

今回も八戸市サッカー協会３種委員会のご厚意で、「第3回八戸市サッカー協会冬季中学生サッカー大会」をユース審判サッカー３級昇級講習会として活用することができました。新型コロナウイルス感染防止の影響で大会開催が危ぶまれる中、参加いただいた中学校関係者の皆様へ厚くお礼申し上げます。

本事業は、スタートした２０１４年から9回目となります。今回は申し込んだ２２名の中に中学生が5名もいて、女子審判員が7名もいました。少しずつではありますがこの講習会が認知され、ユース審判員だけでなく、チーム関係者に受け入れられているのではないかと自負しています。将来の日本サッカーを担う若者が集うこの大会が、今後とも末永く続くことを祈念いたします。本当にありがとうございました。

（一社）青森県サッカー協会審判委員会強化・指導育成部ユース部長　石鉢　学